

海南市の農業



平成 24 年 3 月
海南市営農普及連絡協議会

目 次

1 海南省農業の現状と課題	1
(1) 概況	
(2) 現状	
① 農家の動向	
② 農地の状況	2
③ 農業生産の動向	
(3) 海南省農業の課題	3
2 農産物生産の現状と課題	
(1) 果樹	3
(2) 野菜	5
(3) 花き	6
(4) 水稻	
3 農業・環境保全の現状と課題	7
(1) 農地有効活用の促進	
(2) 鳥獣害防止対策の推進	
(3) 集落共同活動の推進	
(4) 環境保全型農業の推進	
(5) 都市と農村の交流促進	
4 担い手育成の現状と課題	
(1) 新規就農者の確保	
(2) 認定農業者の育成	
5 農業振興方針	8
(1) 基本方向	
(2) 農業地帯と重点作物	
(3) 農業地帯別振興方針	9
① 北部	
② 中部	
③ 東部	10
④ 南部	
⑤ 西部	
6 主要作物の生産計画	11
7 参考資料	12
(1) 主要作物の経営試算	
(2) 海南省農業の主要指標	13
(3) 海南省農業の県内での位置づけ	
(4) 統計データ	14
(5) 気象データ	

1 海南市農業の現状と課題

(1) 概況

海南市は和歌山県の北部に位置し、市の中央部と南部に標高 500 m 前後の長峰山脈が連なり、西は紀伊水道に面している。

この山脈を源とする日方川、亀の川、加茂川が東西に流れ、市の東部には紀の川の支流である貴志川が流れている。

年平均気温は 16.7℃、年間降水量は 1,317 mm と温暖で自然条件に恵まれた地域である。

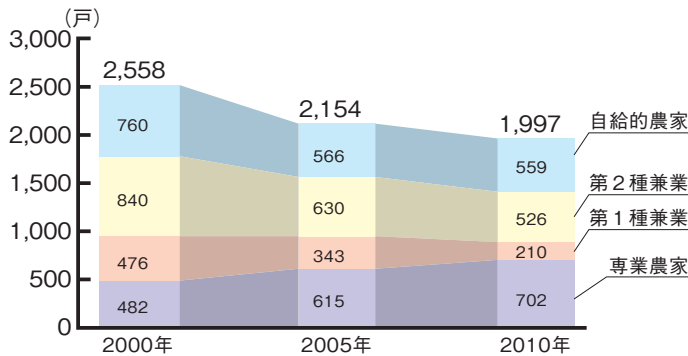


海南市の位置図

(2) 現状

① 農家の動向

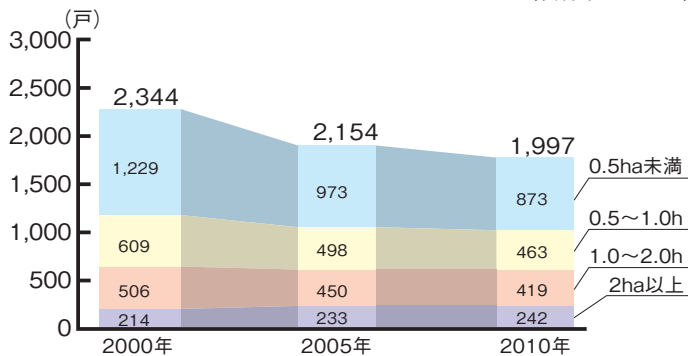
表1 農家戸数と専兼別農家数の推移 (農林業センサス)



農家数の推移として、総農家数は減少傾向にあり、特に兼業農家や自給的農家が大きく減少している。

一方、専業農家は 2005 年から 2010 年までの 5 年間で 14% 増加しており、これは定年帰農等に伴う兼業農家から専業農家への移行が考えられる。

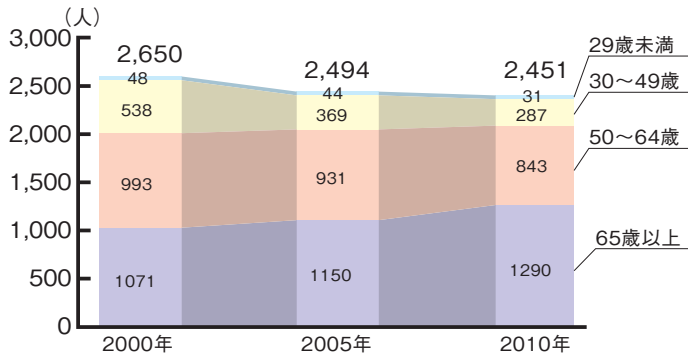
表2 規模別農家数の推移 (農林業センサス)



規模別農家の推移では、農家数、農地面積ともに減少している中で、経営面積 2ha 以上の大規模な農家数は 10 年前に比べて 13% 増えており、0.5ha 未満の農家が 29% 減少している。

このことは、大規模農家が小規模農家や高齢農家の農地を賃借や売買により規模拡大を図ったものと考えられる。

表3 基幹的農業従業者の推移 (農林業センサス)



基幹的農業従事者の推移は、2000 年に比較して、10 年間で総数が 7.5% 減少しており、29 歳以下では 35% と大幅に減少している。

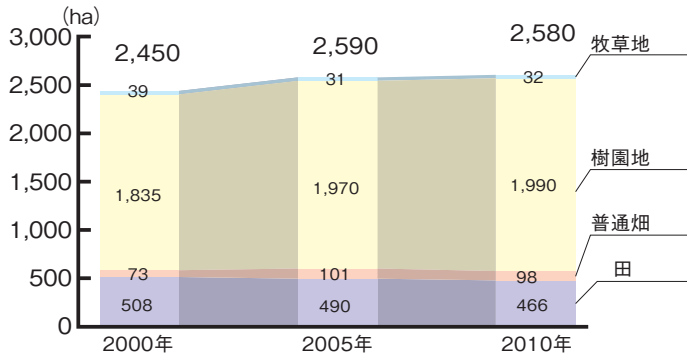
逆に高年齢層では増加傾向にあり、特に、65 歳以上の占める割合は 2000 年では 40% あったが 2010 年には 53% と増えている。

(基幹的農業従事者：ふだん仕事として主に農業に従事している人)

②農地の状況

表4 農地の状況

(農林水産統計)

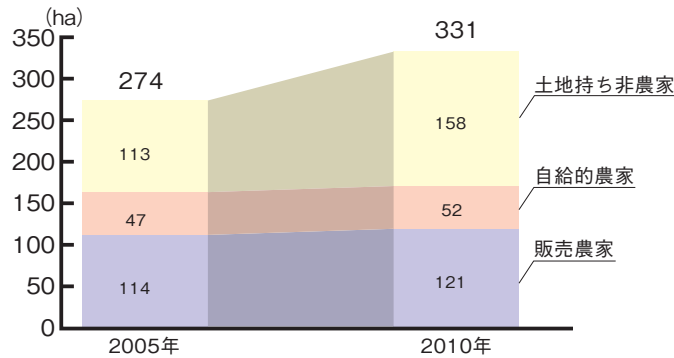


農地の状況として、2010年では、樹園地が全体の77%、田が18%を占めている。

2000年から比較すると、総耕地面積が横ばいしている中で、田の面積は8%減少し、樹園地の面積が8%増加しており、樹園地の比率が高まってきている。

表5 耕作放棄地の推移

(農林業センサス)



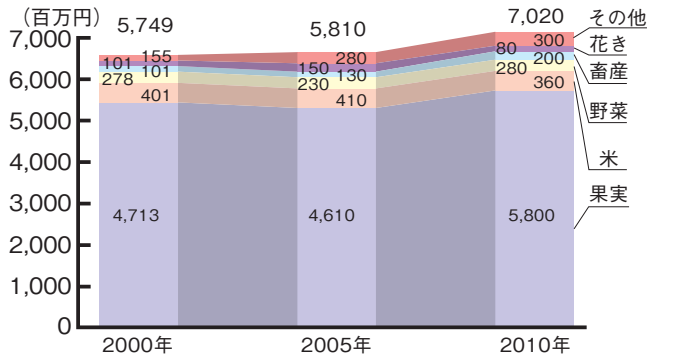
耕作放棄地については、年々拡大しており2010年では331haに達している。これは全耕地面積の約13%に相当する値となっている。

特に、土地持ち非農家の耕作放棄地は5年間で40%増加している。

③農業生産の動向

表6 部門別農業産出額

(農林水産統計)



農業産出額は、2010年では70億2千万円で、10年前と比べて約22%増加している。

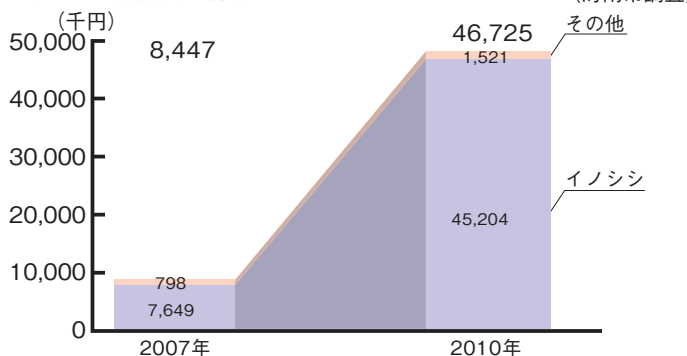
部門別では果実が58億円で総産出額の大半を占め、特に柑橘類の農業経営に占める割合は突出している。

果実価格の低迷等で果実の産出額は減少傾向であったが2010年は温州みかんの価格が比較的良かったため、増加となっている。

次いで米、野菜、畜産、花きの順となっている。

表7 鳥獣被害の推移

(海南市調査)



農作物の鳥獣被害について、2007年に8百万円程度であった被害額が、果樹を中心に年々被害が拡大しており、2010年には4千6百万円を上回るようになり、農業生産を行う上で最も大きな問題となっている。

大半はイノシシによる果樹の被害となっている。

(3) 海南市農業の課題

農業従事者の高齢化と後継者不足による担い手の減少、農産物価格の低迷による経営の不安定化のなか、一方では消費者の「食の安全・安心」への関心が高まるとともに、「味」に対する要望も強まり、生産者に対し高品質化が求められるなど、農業を取り巻く環境が大変厳しくなっている。

また、急傾斜の中山間地域を中心に耕作放棄地が目立ち、鳥獣害による農作物被害が深刻な問題となっており、農村における集落機能の低下が生じてきている。

このような現状の中、海南市農業において次の課題があげられる。

- ①高品質農産物の安定生産
 - ・高品質化の推進
 - ・ブランド化の推進
 - ・6次産業化の推進
- ②農地・環境の保全
 - ・農地の流動化
 - ・鳥獣害防止対策の推進
 - ・集落共同活動の推進
 - ・環境保全型農業の推進
- ③都市と農村の交流
 - ・体験型農業の推進
- ④経営感覚に優れた担い手の育成
 - ・新規就農者の確保
 - ・認定農業者の育成



傾斜地に広がるみかん園

2 農産物生産の現状と課題

(1) 果樹

本市の果樹栽培は、温暖な気候と立地条件に恵まれた海岸部から中山間部の傾斜地を中心に全域にわたって栽培されている。

品種も多種にわたり、みかん（柑橘類）、かき、もも、びわを核として、うめ、すもも、いちじく、キウイフルーツ等種類も豊富で、その品質と量において市場で高く評価されている。

果実の販売農家は、総農家数の56%（1,118戸）で、栽培面積は1,767haとなり、果実の農業産出額は58億円で総産出額の83%を占め、部門別では第一位となっている。

このように、本市において果樹部門は、農家の経営、土地利用の面においても大きな役割を担っている。

①柑橘類

果樹栽培面積の約9割（1,572ha）を占める柑橘類は、高品質果実が生産される条件を備えた急傾斜地の階段畑で栽培されており、そのうち約半分は貯蔵みかんとなっている。

また、歴史ある産地の反面、老木樹や密植園の増加、近年の温暖化による隔年結果の助長、浮皮果問題など、多くの課題がある。

今後は、高品質みかん生産を基本に、老木園、不良系統樹の優良品種への改植更新、品種構成の分散による省力化をさらに進めるとともに、マルチ栽培等の品質向上対策の導入、貯蔵管理の省力化を図り、個性化とブランドづくりに取り組む必要がある。



温州みかんのマルチ栽培

②かき

巽、南野上地区を中心に100ha以上栽培されていたが、柑橘類への転換が進められ、現在では栽培面積が41haとなっている。

品種は早生から富有まで栽培されており、早生では早期出荷、富有では大玉果生産が課題となっている。



収穫間際の刀根早生

③もも

高津地区を中心に優良品種の白鳳、清水白桃などが約37ha栽培されており、贈答用として需要が高く光センサーで品質区分された特選品がブランドとして確立されている。

今後は、銘柄産地としてさらに飛躍するため、品種構成を考え、老木園の改植、間伐、暴風対策等、園地管理を徹底し高品質生産に取り組む必要がある。



人気の夏果物「高津の桃」

④びわ

古くから仁義、藤白地区を中心に栽培されている。栽培面積は47ha、生産量は231tと県内生産量の52%を占めており、その品質は市場でも高く評価され、特産果樹の一つとして位置づけられている。

しかし、急傾斜地による栽培のため耕作放棄地も増加しており、今後は、低樹高栽培による省力化が課題となっている。



初夏を彩るびわ

⑤キウイフルーツ

みかん園地転換品目として導入され、栽培は拡大されてきたが、国内生産量と輸入量の増加により価格低迷となり栽培面積は減少し27haとなっている。

現在は価格が比較的安定しており経営の一品目となっているが、昭和50年代に植えられた木が大半であり老木化が進んでおり、今後は、改植、新品種の導入等により高品質・大玉果生産が望まれている。



産地化されたキウイフルーツ

⑥うめ

中山間部を中心に28ha栽培されており、古くから栽培されているものと、水田転換やみかん園転換で栽培されてきたものがある。個々の生産規模は小さいため、生産量の多くは青梅として出荷されている。

今後は、優良品種の南高梅及び受粉樹の導入を図るとともに、栽培管理の徹底による安定生産に取り組む必要がある。

⑦すもも

中山間地の傾斜地や棚地を利用して栽培されており、栽培面積は8haあり早生種を中心に中、晩生種も栽培されている。

今後は、安定生産と品質向上を図るため、老木樹の更新、品種選定、栽培管理の徹底による大玉化生産を図る必要がある。

《果樹における課題》

- ①個性化とブランド商品づくり
基本管理の徹底と高品質果実生産
- ②改植による優良品種の導入
消費者ニーズに合わせた品種への転換
- ③地球温暖化への対応
高品質果実の連年安定生産
- ④作業効率の向上と省力化
園内道、多目的スプリンクラー、モノレール等の整備
- ⑤集出荷施設の高度利用と情報発信
戦略商品づくりと市場、消費者へのPR推進
- ⑥複合経営の推進
果樹間、野菜、花きとの複合経営の推進
- ⑦農業6次産業化の推進
生産・加工・流通（販売）の一体化による付加価値の拡大



海南のブランド「貯蔵みかん」

(2) 野菜

温暖な気象条件に恵まれ、京阪神市場に近いことから水田の裏作を中心に野菜が栽培され、昭和50年代からは施設栽培を導入する農家も増えてきた。

2010年における野菜の栽培面積は32haで、農業産出額は2億8千万円と総産出額に占める割合は4.0%となっている。

今後、立地条件を活かした都市近郊産地として、野菜生産の拡大を図るとともに地産地消品目として生産の充実を図る必要がある。

① トマト

施設栽培の中心品目で、大玉トマト、ミニトマトを合わせると、現在4haとなっている。

ミニトマトについては、高糖系品種（キャロル7）を導入して特別栽培農産物の認証を取得し、房どり「美味房^{おいしんぼう}」が市場で好評を得ており、さらに栽培面積の拡大が望まれていている。



消費者に人気の高いミニトマト

② なす

夏秋なす、小なすを中心に栽培されており、現在2haの面積があるがやや縮小傾向にある。

水田の高度利用作目として栽培面積の拡大を図る必要がある。

③ はくさい、キャベツ

水田の裏作品目として6haの栽培面積が定着しているが、消費地に近い立地条件を活かし、土地の高度利用と収益の向上を図るため生産拡大を行う必要がある。

④ いちご

水田地帯を中心に栽培されてきたが、栽培農家の減少により、現在の栽培は約1haとなっている。収益性が安定しており高設栽培等の導入を行い生産拡大を図る必要がある。

《野菜における課題》

- ①「安全・安心」農産物の供給
農薬の適正使用と生産管理の徹底
- ②主品目の拡大と少量品目の多様化
地域条件を活かした品目選定と作付け体系の確立
- ③施設栽培の拡大
施設栽培による周年供給産地化
- ④販売形態の多様化
ファーマーズマーケット等地域内流通体制の確立



房どり完熟栽培のミニトマト

(3) 花き

古くから、きく、ストック、鉢物等の施設による花きが栽培され、その後水田転作によるシャクヤクが導入され、スプレーぎく、スターチス、トルコギキョウ、ばら、千両等多品目の花きが栽培されるようになった。

2010年における花き栽培は面積が4ha、農業産出額は8千万円で、総産出額の1.1%を占めている。

今後は、果樹との複合部門として生産を拡大させるとともに、消費者ニーズに対応した品種の導入や高品質化が重要となっている。

《花きにおける課題》

- ①施設栽培の拡大
周年栽培と高品質花きの安定生産
- ②販売形態の多様化
多品目化によるファーマーズマーケットへの対応
- ③水田活用、耕作放棄地対策としての振興
有望作目の導入と産地化



スプレーぎくの栽培

(4) 水稲

本市の水稲栽培は、亀川、中・南・北野上地区の平坦部と中山間地の棚田が中心となって347ha作付けされている。

経営形態としては、自家消費米が多く、一戸当たりの耕作面積が少ないものの、水田は雨時の貯水池としての機能があり地域の環境保全に大きく貢献している。

水稲の農業産出額は3億6千万円で総産出額の5.1%を占め、部門別の産出額では果実に次いで2番目となっている。

近年、都市化とともに、米価の低迷、生産費の高騰からの採算性の低下、農家の高齢化と相まって耕作放棄地田も多く見られ、水稲作付け面積は減少傾向にある。

今後は、特長のあるブランド米の生産を目指すとともに、優良農地の確保と耕作放棄地田の保全管理についての対応が必要となっている。

《水稲における課題》

- ①優良品種の普及
消費者ニーズに対応した品種のブランド化
共同育苗等による生産の効率化
- ②農地の高度利用
水田裏作作物導入による複合経営の推進
- ③経営規模の拡大
農地の流動化と作業受委託の促進

3 農業・環境保全の現状と課題

(1) 農地有効活用の促進

都市化及び農業者の高齢化等により耕作放棄地が増加する中、優良農地を担い手に集積するため、農業経営基盤強化促進法に基づく農地の有効活用等が望まれている。

年 度	2008	2009	2010
利用集積面積 (ha)	8.3	4.4	23.6

(2) 鳥獣害防止対策の推進

中山間地域を中心にイノシシ、アライグマ等の鳥獣被害が増加し、農業経営に大きな影響を与えている。

このため、地域ぐるみで防護柵設置、有害鳥獣捕獲等、各種対策の強化が求められている。

年 度	2008	2009	2010
有害イノシシ捕獲頭数 (頭)	238	306	310
防護柵設置 (km)	10.2	19.7	21.0
捕獲檻の設置 (基)	5	5	5

(3) 集落共同活動の推進

過疎化、高齢化が進む中、農業生産の維持を図りながら、多面的機能を確保し地域を活性化するため中山間地域等直接支払い制度を活用した共同活動が重要となっている。

年 度	2008	2009	2010
協定締結数 (集落)	38	38	38
交付金額 (億円)	1.54	1.54	1.54

(4) 環境保全型農業の推進

地球の温暖化など、環境問題が問題化しており、農業に対しても、化学農薬を削減するなど環境への負荷を低減する取り組みが求められている。

年 度	2008	2009	2010
エコファーマー認定数 (人)	9	13	14

(累計)

(5) 都市と農村の交流促進

農村では高齢化のため地域活力の低下が見られる一方、農業体験を希望する都市住民も増えてきている。

このため、都市住民による棚田の保全活動や市民農園、観光農業等の充実強化が求められている。



都市住民による棚田の保全活動

4 担い手育成の現状と課題

(1) 新規就農者の確保

年間9名の新規就農者数では、現在の専業農家数を維持するのは厳しい状況にあり、多様な担い手を含めた各種確保対策が望まれている。

年 度	2008	2009	2010
新規就農者数 (人)	9	9	9

(2) 認定農業者の育成

生産コストの高騰や農産物価格の低迷に対応するため、他産業並みの所得、労働時間の実現を目指す効率的・安定的な農業経営を行う認定農業者の育成が重要な課題となっている。

年 度	2008	2009	2010
認定農業者数 (人)	354	363	373

(累計)

5 農業振興方針

(1) 基本方向

①生産技術の向上

- ・高品質な農産物生産を行うため、新品種、新技術の導入促進
- ・「安心・安全」農産物生産の推進

②産地のPR

- ・農産物のブランド化の推進
- ・地産地消の推進
- ・消費者との交流促進
- ・6次産業化の推進

③担い手の育成

- ・青年農業者の確保育成
- ・認定農業者の育成支援
- ・UJIターン者等を含めた多様な担い手の育成

④農業の持つ多面的機能の確保

- ・鳥獣被害防止対策の推進
- ・耕作放棄地の有効活用
- ・体験型農業の推進

⑤生産基盤の整備

- ・省力化機械、施設の導入促進
- ・農道、ため池等の生産基盤整備

(2) 農業地帯と重点作目

農業地帯	重点作目		
	基幹作目	振興作目	新規作目
北部	もも	ミニトマト なす	なし（幸水、豊水） スイカ
中部	水稲	葉菜類 果菜類 花き（シャクヤク）	ミニトマト ブロッコリー
東部	温州みかん かき	中晩柑（清見） うめ さんしょ 果菜類	花木（千両、ユーカリ） 中晩柑（不知火）
南部	温州みかん びわ	中晩柑（不知火、清見） 花き類 キウイフルーツ	温州みかん（丹生系） 中晩柑（はるか、南津海）
西部	温州みかん 中晩柑		

（注） 基幹作目＝経営の中でウエイトの高い作物
振興作目＝収益性を高めるための有利作目
新規作目＝新しく取り入れる有利作目



(3) 農業地帯別振興方針



光センサーで選果されたもも

①北部農業地帯

市の北部に位置する丘陵地帯で、高津地区を中心にももの栽培が盛んで、高品質なももが生産され「高津の桃」として市場からも高く評価されている。

また、野菜では、ミニトマト、なす等の野菜に取り組む農家も増えこれらの面積拡大を図る。

【振興方針】

もも＝老木園の改植、有望品種の導入、省力化対策、病害虫対策

野菜類＝主品目の面積拡大

②中部農業地帯

市の北部に位置する亀川、中野上、北野上地区は、平坦な水田地帯がつながり、その周辺の丘陵地及び日方地区に柑橘園が点在している。

水田の利用状況は、排水不良や兼業化のため水稲作のみが多くを占め、転換作物の導入があまり進んでいない。

このような状況の中、トマト、シャクヤク、花き類の栽培が定着してきている。

今後は、米の計画的生産と裏作野菜のはくさい、キャベツ、ブロッコリー等の葉菜類の生産拡大を図るとともに、ミニトマトを中心に施設野菜の栽培推進を図る。

【振興方針】

果菜類＝大玉トマト、ミニトマトの安定生産技術の確立

花き類＝シャクヤクの早期出荷対策

葉菜類＝水田裏作野菜、はくさい、キャベツ等の生産拡大

③ 東部農業地帯

平坦部に比べて、夏は涼しく、冬は逆転層の影響を受けるところでは初霜も半月程度遅く、柿、みかんを中心とした経営形態が取られている。

今後は、基幹作物の個性化商品づくりと、立地条件を活かした作目の導入と生産拡大を図り、「柿＋柑橘＋他品目」の経営形態を進める。

【振興方針】

- か き＝受粉、摘蕾、摘果の徹底による大玉果生産、剥被、摘葉、マルチ栽培による高品質化、優良品種の導入
- 柑 橘＝優良品種への改植、マルチ栽培による高品質化
- う め＝優良品種（南高）と受粉樹の確保
- さんしょ＝栽培技術の確立と販路の拡大



色づいた温州みかん



さんしょの実

④ 南部農業地帯

加茂川両岸に位置する加茂、仁義地区では急傾斜地の階段状の樹園地でみかんを中心に、中晩柑類、キウイフルーツなどが栽培されており、特に貯蔵みかんの産地として位置づけられている。

また、仁義地区とともに北側の藤白地区はびわの栽培が盛んで、県内一位の産地であり、市場の評価も高い。

営農形態としては、高品質みかんの生産を主軸に、びわ、キウイフルーツ等の果樹との組み合わせによる柑橘＋他果樹経営の推進を図る。

【振興方針】

- み か ん＝老木樹、不良系統樹の改植、密植園の間伐、優良品種・系統の植栽
一園地一品種化、園地の基盤整備による省力化、品種構成の分散による省力化、貯蔵管理の省力化
マルチ栽培等による高品質果実生産技術の普及
- 中 晩 柑＝奨励品種（不知火、清見等）の適地適作の植栽と産地化
不良樹の改植と栽培技術の向上、無加温や雨よけ施設の導入
- び わ＝低樹高仕立て栽培等による省力化栽培の確立
- キウイフルーツ＝老木樹の更新、栽培面積の拡充、新品種の導入、大玉果生産
- 野 菜 類＝軽量野菜の検討

⑤ 西部農業地帯

西部沿岸部に位置する大崎、下津地区で、比較的温暖な気象条件と土地条件に恵まれ、急傾斜地で高品質みかんが生産され、年内と年明け出荷が行われており、最近では中晩柑の導入も多くなってきている。

平坦部には、スプレーぎく、ばら、ストック等の花き類が一部栽培されている。

経営形態としては高品質みかんを主軸とした他柑橘との組み合わせによる柑橘専作経営、又は、柑橘＋施設園芸の推進を図る。

【振興方針】

- みかん・中晩柑＝適地適作をもとに、南部農業地帯と同じ対応を図る
- 花 き＝栽培面積の拡大、土づくり対策、高品質生産対策、新品種の探索

6 主要作物の生産計画

品 目		2005年		2010年		2015年		
		栽培面積 (ha)	生産量 (t)	栽培面積 (ha)	生産量 (t)	栽培面積 (ha)	生産量 (t)	
果	温州みかん	1,360	31,700	1,430	28,800	1,290	27,550	
	極早生	86	1,820	104	2,300	92	2,210	
	早生	332	7,540	376	5,700	338	4,940	
	普通	911	22,400	953	20,800	860	20,400	
	はっさく	58	1,420	36	1,000	36	1,000	
	なつみかん	10	242	8	250	8	250	
	清見	48	933	57	1,000	57	1,000	
	いよかん	23	374	8	159	6	120	
	その他柑橘	54	630	33	710	40	840	
	もも	38	552	37	450	30	400	
	すもも	11	132	8	226	10	142	
	樹	うめ	29	169	28	265	28	230
		かき	46	774	41	381	28	400
		渋がき	29	611	28	313	20	320
		甘がき	15	163	13	63	8	80
		びわ	58	325	47	231	40	200
		キウイフルーツ	22	467	27	652	30	780
		いちじく	3	77	3	77	3	77
さんしょ		4	20	4	20	4	20	
果樹計		1,764	37,815	1,767	34,221	1,610	33,009	
水 稻		354	1,800	347	1,750	340	1,730	
野	いちご	1	35	1	35	1	35	
	トマト	3	169	2	242	2	200	
	ミニトマト	1	100	2	105	2	130	
	なす	2	55	2	47	3	57	
	きゅうり	1	65	2	51	2	50	
	キャベツ	4	170	3	107	3	100	
	はくさい	3	228	3	165	3	140	
	ブロッコリー	2	16	2	17	3	15	
	ねぎ	2	40	3	35	3	36	
	菜	ばれいしょ	5	58	4	43	4	40
		たまねぎ	2	77	2	42	2	50
		だいこん	2	83	2	120	2	100
		スイカ	2	47	2	46	2	45
		さといも	1	18	1	15	1	15
		しょうが	—	—	1	7	1	7
野菜計		31	1,161	32	1,077	34	1,020	
品 目		2005年		2010年		2015年		
		栽培面積 (ha)	生産量 (千本)	栽培面積 (ha)	生産量 (千本)	栽培面積 (ha)	生産量 (千本)	
花き	きく	1	1,300	1	951	1	1,000	
	シャクヤク	2	223	2	250	2	250	

(農林水産統計、市町村別統計検討協議会)

7 参考資料

(1) 主要作物の経営試算

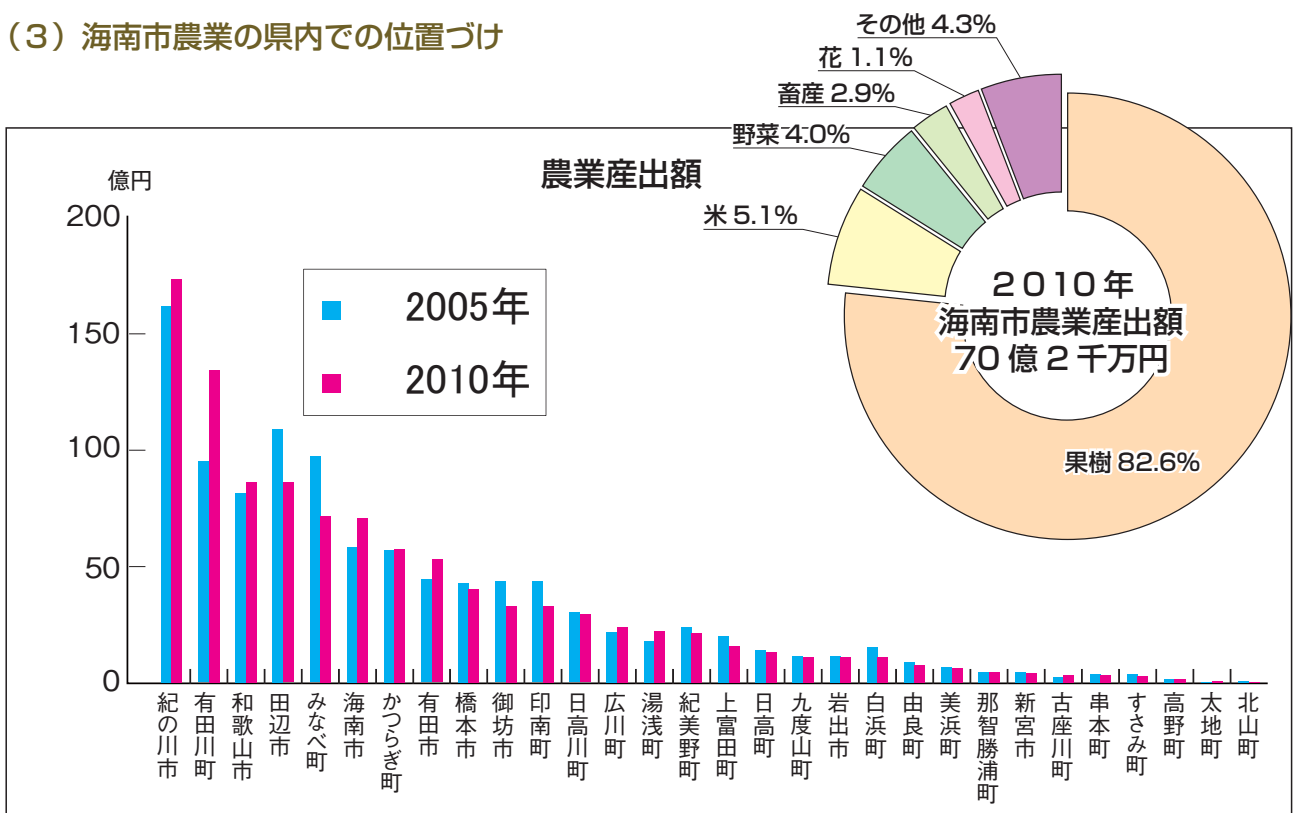
作 目		作型	収量 (t)	単価 (円/kg)	粗収益 (千円)	生産費 (千円)	所得 (千円)	労働日数 (日)	
果	温州みかん	極 早 生	3.0	156	468	344	124	25	
		早 生	3.8	157	697	392	205	23	
		普 通	年 内	3.0	163	489	348	141	24
		普 通	貯 蔵	3.0	215	645	348	297	25
	中 晩 柑	清 見	3.0	222	666	350	316	29	
	かき	(渋)	刀根早生	3.0	240	720	357	363	25
			平核無	3.0	207	621	345	276	25
			紀の川	2.8	333	932	447	485	39
		(甘)	松本早生	2.0	241	482	287	195	25
	富 有		2.0	229	458	287	171	25	
	う め	南 高	2.0	350	700	233	467	20	
	樹 び わ	茂 木	1.0	883	883	298	585	43	
	キウイフルーツ			3.0	352	1,056	507	549	27
	も も	早 生	2.5	448	1,120	555	565	35	
中生・晩生		3.0	448	1,344	646	698	41		
す も も	ソルダム	2.0	520	1,040	457	583	25		
さんしょ	生	0.5	1,201	601	235	366	38		
	干	0.156	3,228	504	186	318	38		
水 稻			0.54	208	112	52	60	11	
野 菜	は く さ い		8.0	56	448	315	133	19	
	キ ャ ベ ツ		4.5	94	423	252	171	16	
	ブ ロ ッ コ リ ー		1.25	271	339	236	103	25	
	青 ね ぎ		1.0	363	363	225	138	40	
	し し と う	トンネル・露地	3.5	679	2,376	1,083	1,293	300	
	な す		無加温	7.0	274	1,918	902	1,016	163
	い ち ご		無加温	5.0	954	4,770	1,253	3,517	227
	ト マ ト		加 温	20.0	288	5,760	3,124	2,636	169
	ミ ニ ト マ ト		加 温	6.5	1,269	8,249	4,458	3,791	275
作 目		作 型	収量 (千本)	単価 (円/本)	粗収益 (千円)	生産費 (千円)	所得 (千円)	労働日数 (日)	
花 ぎ	シャクヤク		15	102	1,530	400	1,130	58	
	スプレーぎく		加 温	135	53	7,155	4,521	2,634	158
	スイトピー		加 温	200	26	5,200	2,569	2,631	323
	トルコギキョウ		加 温	85	80	6,800	3,648	3,152	110
	輪 ぎ く		加 温	66	60	3,960	2,083	1,877	178

(JAながみね第2次農業振興計画より引用、単価はH21・22年のJAながみね販売単価を基本とした)

(2) 海南市農業の主要指標

	項目	海南市	和歌山県	シェア (%)	備考
概況	総面積 (km ²)	101	4,726	2.1	2010年国勢調査
	総世帯数 (戸)	20,748	393,750	5.3	
	総人口 (人)	54,790	1,001,261	5.5	
担う人々	総農家数 (戸)	1,997	33,799	5.9	2010年農林業センサス
	販売農家 //	1,438	23,207	6.2	
	専業農家 //	702	9,644	7.3	
	第1種兼業農家 //	210	3,854	5.4	
	第2種兼業農家 //	526	9,709	5.4	
	自給的農家 //	559	10,592	5.3	
	基幹的農業従事者	2,451	36,121	6.8	
基盤	耕地面積 (ha)	2,580	35,200	7.2	2010年農林水産統計 市町村別統計検討協議会
	田 //	466	10,600	4.4	
	畑 //	98	2,550	3.8	
	樹園地 //	1,990	22,100	9.0	
	牧草地 //	32	41	78.0	
産出額	農業産出額 (億円)	70.2	1,025	6.8	2010年農林水産統計 市町村別統計検討協議会
	果実 //	58.0	613	9.5	
	野菜 //	2.8	165	1.7	
	花き //	0.8	58	1.4	
	米 //	3.6	78	4.6	
	畜産 //	2.0	62	3.2	

(3) 海南市農業の県内での位置づけ



(4) 統計データ

項目	1990年	1995年	2000年	2005年	2010年
総農家数 (戸)	2,869	2,589	2,558	2,154	1,997
販売農家	2,117	1,916	1,798	1,588	1,438
専業農家	701	604	482	615	702
第一種兼業農家	353	524	476	343	210
第二種兼業農家	1,054	788	840	630	526
自給的農家	752	673	760	566	559
基幹的農業従事者 (人)	3,147	2,864	2,650	2,494	2,451
65歳以上の割合 (%)	—	32.6	40.4	46.1	52.6
総耕地面積 (ha)	2,590	2,510	2,450	2,590	2,580
田	554	528	508	490	466
畑	56	78	73	101	98
樹園地	1,933	1,870	1,835	1,970	1,990
牧草地	39	39	39	31	32
経営規模別農家数 (戸)	2,869	2,588	2,558	2,154	1,997
0.5ha未満	1,282	1,133	1,229	973	873
0.5～1.0	759	664	609	498	463
1.0～2.0	648	577	506	450	419
2.0以上	180	214	214	233	242
農業産出額 (億円)	76.5	61.9	57.5	58.1	70.2
果樹	61.5	49.1	47.1	46.1	58.0
野菜	3.7	2.6	2.8	2.3	2.8
花き	1.0	1.4	1.0	1.5	0.8
米	5.2	5.6	4.0	4.1	3.6
畜産	2.4	1.6	1.0	1.3	2.0
その他	2.7	1.6	1.6	2.8	3.0

(農林業センサス、農林水産統計)

(5) 気象データ (和歌山気象台)

① 1980～2010年データ

年	気温 (°C)			平均湿度 (%)	日照時間 (h)	降水量 (mm)
	平均	最高	最低			
1980年	15.7	34.5	-3.6	70	2,120.4	1,617.0
1985年	16.5	35.3	-1.9	67	2,234.5	1,340.5
1990年	17.3	36.6	-1.4	68	2,139.0	1,505.5
1995年	16.2	37.2	-1.2	65	2,132.0	1,410.5
2000年	16.8	36.4	-2.1	67	2,085.1	1,414.0
2005年	16.6	35.1	-0.8	61	2,071.2	986.0
2010年	17.1	36.2	-1.2	64	2,039.2	1,578.0
平年値 (30年間)	16.7	35.7	-1.7	67	2,115.0	1,317.5

② 2010年月別データ

月	気温 (°C)			平均湿度 (%)	日照時間 (h)	降水量 (mm)
	平均	最高	最低			
1月	6.3	17.4	-1.2	57	155.9	38.0
2月	8.1	21.6	0.7	61	126.4	104.5
3月	10.0	22.3	0.9	62	134.8	180.5
4月	13.5	22.7	4.1	59	161.5	126.5
5月	18.7	29.0	9.2	64	207.3	130.5
6月	23.4	32.1	15.4	72	170.2	178.5
7月	27.1	35.9	19.9	73	200.7	340.0
8月	29.5	36.2	23.2	68	278.5	28.5
9月	26.2	35.2	15.4	64	209.6	75.0
10月	19.7	27.4	10.5	67	125.7	214.0
11月	13.1	21.4	3.8	62	135.7	32.5
12月	9.1	20.2	1.8	60	132.9	129.5